2023 年度第 4 回　研究例会

実施日:2024 年 2 月 21 日　@社会福祉学部棟 301 講義室

①報告者　　：講師　狩野俊介先生

報告テーマ：「これまでの研究，これからの研究」

【報告要旨】

着任した 2021 年度から 2023 年度の間，①精神障害者の地域生活支援におけるクライシス・プラン，②スクールソーシャルワーク（SSW），③その時々の依頼・関心による研究，の 3 つのテーマに関する研究に取り組んだ。特に，②のテーマは報告者が社会福祉学研究科での SSW 養成課程を担当したことを受け，研究科に養成課程が設けられているのであれば，SSW に関する研究成果を示す必要があると考え注力したものであった。他のテーマに関する研究とともに，一定の研究論文等として成果を示めせたものの，十分に計画を練った研究を実施することができなかった。また，2023 年度から科学研究費助成事業（基盤研究 C）に新たに研究課題が採択されたが，まったく進めることができず，研究能力の乏しさを痛感していること等を，“これまでの研究”として報告した。

そして“これからの研究”として，着任後から新たに研究を開始した「学校現場における心理教育の効果に関する研究」について紹介した。この研究は，精神医療領域のリハビリテーションとして実施されているメタ認知トレーニング（Metacognitive Training：MCT）を応用した中学校の保健講話の取り組みである。その結果から，研究の課題は存在するものの期待できる有効性や学校現場の保健講話における実施方法に関する示唆が得られ，今後も継続して進展させていきたいことを報告した。

②報告者　　：准教授　伊藤隆博先生

報告テーマ「能登半島地震における要配慮者の現状と支援
～金沢 1.5 次避難所を中心に～」

③報告者　　：准教授　庄司知恵子先生

報告テーマ：「今までとこれから」

【報告要旨】

2009 年に着任して以来、社会福祉学部における「農村社会学」の立ち位置を考えながら、教育研究に励んだ 15 年でした。研究職を目指したきっかけは、卒業課題研究で取り組んだ秋田県藤里町における自殺予防活動の展開について、指導教員からもたったコメントでした。「調査を頑張ったのはわかる。で、庄司さんは何を言いたかったの？」。この問いに答えられないまま、大学院時代を過ごしていましたが、本学部で、福祉を専門とする先生がたの研究に触れ、その問いが「地域福祉の困難性をどうのりきったのか」という事であることに気が付きました。期せずして、東日本大震災以降、足を運んだ宮城県石巻市北上町

の復興を巡る住民の活動を調査する中で、同様の問いに出会いました。その問いに答える形でまとめた 2022 年の論文では、最後の締めくくりに秋田県藤里町の自殺予防活動に触れ、地域福祉のガバナンスの問題を乗り越えるべき視点を提示しました。

社会福祉学部での 15 年は、私が研究職を目指した際に指導教員からもらった宿題に、答えるべき環境を提供してくれました。一つ区切りが付きましたので、これからは、新たなテーマとして、また、本来の専門である農村社会学にどっぷりとつかるために、「地域運営組織を巡る住民の営為」について捉える研究を進めていきたいと思っております。